

京都府生活習慣病検診等管理指導協議会がん検診部会
第4回胃がん検診ワーキング<結果概要>

- 1 日時：令和3年1月29日（金）15時00分～17時00分
- 2 場所：オンライン開催
- 3 出席者：28名
＜委員等＞渡邊部会長、角水委員、前川委員、吉田委員、小林委員、長沢委員
＜オブザーバー＞（株）富士フィルムメディカル 森本氏、京都府医師会 尾崎課長、
10市町村（京都市、向日市、長岡京市、大山崎町、城陽市、京田辺市、木津川市、
亀岡市、舞鶴市、京丹後市）、1保健所（中丹西）
＜事務局＞8名
- 4 内容：下記のとおり
 - (1) 報告事項
 - ① 第3回胃がん検診ワーキングの結果概要
 - ② 府内実施市町村における実施状況
 - ・福知山市では、今年度5月より開始。導入にあたっては、福知山医師会の協力を得た。
 - ・京都市、久御山町では、新型コロナウイルス感染症の影響で受診者数が減少。
 - ③ 府内市町村における胃内視鏡検診の意向調査結果について
 - ・全体の7割の市町村が胃内視鏡検診の導入を検討。市町村単位、地区医師会単位での実施よりも、府広域での実施を希望する市町村が多くを占めた。
 - ④ 対策型胃がん検診（胃内視鏡検査）導入検討のためのアンケート調査について
 - ・調査内容は、広域化における実施意向、可能と思われるダブルチェック体制、対策型胃がん検診としての1週間当たりの内視鏡検査実施可能件数、意見要望の4点。
 - ・2月末に締め切り、次回ワーキングで結果を報告予定。
 - (2) 協議事項
 - ① オンラインシステムを活用した胃がん検診（胃内視鏡検査）について
 - ・アシスタの活用により、個別の精度管理だけでなく、検診全体の統計的精度管理も可能となる。
 - ・広域化にあたり、地域の実情を踏まえ、施設基準、施行医基準等、要件緩和も検討予定。
 - ② 富士フィルムメディカルからの情報提供 ※資料なし ※DVD放映
 - ・クラウド運営費は、京都府を1つの単位として設定。委託料単価に盛り込まれる。
 - ③ 京都府医師会からの情報提供
 - ・クラウド運営費を市町村単位の固定費ではなく、1件あたりの委託料に組み込む形で算出。
 - ・クラウド運営費、精度管理や検診にかかる事務費を、府下での推計受診者数（今回は2,000人）で割ると、1件あたり2,000円前後。1件あたり委託料は、20,000円から21,000円で算定した。
 - ④ 意見交換（各委員等の主な御意見）
 - 1件あたり委託料単価について
 - ・1件あたり20,000円～21,000円は、診療報酬+ α （事務費、クラウド使用料等）の金額としては妥当といえる。
 - ・導入に向け予算は必須。委託料単価と推計受診者数を参考に、導入可否を検討してほしい。

○実施施設について

- ・施設の体制や技術は、安全に精度の高い検診を実施する上で把握の必要な項目。今後、施設の体制・技術に関する調査も必要。
- ・胃内視鏡検査に熱心な医師も多く、検診体制、ダブルチェック体制を府広域で構築できれば、現場の医師の協力は得られると思われる。
- ・地域の基幹病院に参画してもらうことで、それに続く形で開業医や志のある医師の参画が進み、広域化が進む。圏域ごとに基幹病院に働きかけることが必要。
- ・京都府医師会が構えていただいているのが強み。病院、診療所の医師の意見交流が円滑に進む。

○ダブルチェック体制及び精度管理について

- ・オンラインシステムを活用すれば、市町村、圏域を越えて、専門医が読影することが可能。
- ・市町村や地区医師会単位ではなく、府広域での実施を想定している。

○地区医師会と市町村との連携について

- ・福知山市での導入のように、検診の技術、精度管理は地区医師会、行政内の調整、予算確保、議会対応は市町村というように、役割分担を進めて、それぞれの体制構築に集中することが必要。

○市町村実施に向けた予算確保等について

- ・予算確保のためには、検診全体の組み替えが必要。胃がん検診の対象年齢や受診間隔だけでなく、他の検診の組み替えも実施した。
- ・先行自治体の例を参考にしながら、自治体同士だけでなく、京都府医師会、京都府等関係機関と丁寧に調整していく必要がある。

<今後に向けて>

- ① 1件あたり委託料単価を受けての市町村での導入可能性について把握
- ② 地区医師会への働きかけ
- ③ 胃がん検診二次精密検査医療機関向けアンケート調査結果の取りまとめと報告
- ④ 応需数及び施設からの意見をもとに、次に具体的に検討する事項を検討
(医師の認定要件、施設の認定要件等)